アンケート調査によるため池の現状及び課題の認識評価について

On evaluation of Cognition of Actual Condition and Subjects of Agricultural Tanks by Questionnaire Survey

○角道弘文*，森下一男*，白木渡*，守田秀則*

Hirofumi KAKUDO，Kazuo MORISHITA，Wataru SHIRAKI，Hidenori MORITA

１．緒言

ため池は，農業用水源としての本来機能以外に多面的な機能[1)]を有している．ため池保全の検討にあたっては，堰堤の補修，底泥除去といった貯水機能の保全だけでなく，多面的な機能を維持・推進するための保全のあり方について検討する必要があろう．しかし，ため池の諸機能を保持するために必要な維持管理は，ゴミ投棄，水質汚濁等により，受益農家のみでは困難になっているとする水利地区が少なくない[2)]．

市民のため池保全に対する理解・関心を高める第一段階として，ため池の多面的機能を含めた，ため池の現状と課題について情報発信を行うことが有効であろう．本研究では，香川県におけるため池の保全について，県民への意識向上に向けた今後の展開に資するために，ため池の現状及び課題について，県民がどの程度認識しているのかについてアンケート調査をもとに評価する．

２．調査方法

(1)アンケート項目

回答者属性として，性別，年齢層，農業との係わり，地域の清掃・美化活動等への参加の有無などとした．以下のような情報発信を兼ねたため池に関する現状・課題を設定し，これらについて知っていたかどうかを問うた．

- 香川県のため池は全国的に多いこと．
- ため池は主として農業用水源であること．
- 渇水時には，香川用水を通じて都市用水へ融通していたこと．
- ため池は主として農家主体により維持管理されていること．
- ため池は多面的な機能を有すること．
- ため池の維持管理が困難になりつつあること．
- ため池が適切に管理されなければ，市民にも影響が及びうること．
- 水質汚濁の原因の一つに家庭排水があること．

(2)アンケートの実施

筆者ら及び香川県土地改良課，同農村整備課職員によりアンケート用紙を配布・回収した．世帯主のみによる回答を意識的に避ける意味で，各世帯に複数のアンケート用紙を配布した．アンケート調査は2000年11，12月に実施し，配布から回収までの期間を概ね5, 6週間とした．回答総数は301であった．

３．調査結果及び考察

(1)回答者属性の概要

年齢層・性別　各年齢層から比較的偏りなく回答が得られたが，「30～40歳」以下が全体の50%弱であり，「20歳未満」もわずか（全回答者の5%）であったが回答を得た．男女比は4：6の割合であり，女性の回答が多かったことが特徴である．

農業との係わり　「自分自身，両親，親戚ともに農家ではない」（以下，非農家）と回答した人が約30%であった．「自分の家庭は農家である」と回答した人は約15%であった．

清掃・美化活動等への参加の有無　約40%の回答者が，地域において何らかの清掃・美化活動等に係わった経験があるという結果であった．

* 香川大学工学部，*Faculty of Engineering, Kagawa Univ.*

(2)香川県におけるため池の現状認識

香川県ため池の基礎情報　「香川県のため池は全国的に多い」についてみると,「初めて知った」と回答した人は「30～40 歳」以下の年齢層において20%を上回る結果となった．ため池数といった基礎的な事項は, 40 歳以下の年齢層を対象とした情報提供がとくに必要であろう．

「ため池は農業用水源である」についてみると,属性の違いによる著しい差は認められなかった．ただし,「20 歳未満」において「初めて知った」との回答が 14.3%と高かった．若い世代をターゲットとした情報提供が必要であろう．

農家による維持管理　維持管理が農家により行われているという認識は決して高くなかった．年齢層別にみると,「30～40 歳」以下で認識の程度が低いことがわかった. 農業との係わり別にみると,「親戚等に農家がいる」「非農家」では約 50%が「初めて知った」との回答であった．清掃・美化活動への参加の有無別にみると，参加経験のある回答者のほうが，認識の程度が高いことがわかった．清掃・美化活動を通じて農家との触れ合いもありうることから，ため池等の維持管理の実態について見聞きする機会が多いと考えられる．

ため池の多面的な機能　比較的多くの回答者が,多面的機能について認識していることがわかった．しかし，年齢層別にみると,「30～40 歳」以下で認識の程度が低いことがわかった．また，女性の認識の程度は男性に比べて低く，女性に対し多面的機能に関する情報提供をより積極的に行うことが必要であるといえる．農業との係わり別についてみると,「自身が農家」「親戚等に農家がある」「非農家」の各階層による違いが明確となった．このことより，農業に触れる機会の少ない住民に対しては，ため池の有する多面的機能に関する情報提供をとくに積極的に行う必要がある．

(3) 香川県におけるため池の課題認識

維持管理の脆弱傾向　「初めて知った」とする回答が半数以上であることから，維持管理上の課題について，広く県民に訴えかける必要がある．年齢層別にみると「30～40 歳」以下で認識の程度が低かった（**図-1**）．ため池保全の全県民的な取り組みを志向するならば，その前提とした現状課題の情報提供は, とくに 40 歳以下の年齢層に対して行われる必要があろう．

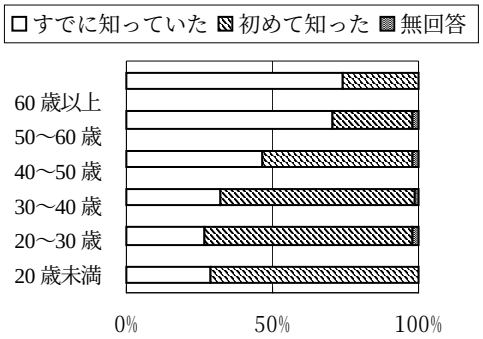

図-1　維持管理の脆弱傾向の認識（年齢別）

また，女性の認識の程度は男性に比べて低かったことから，とくに女性に対する情報発信の働きかけが肝要であると考えられる．農業との係わり別にみると,「自身が農家」とした回答者の認識の程度は高かったが,「親戚等に農家がいる」「非農家」では約 40%にとどまった．

４．結語

本研究では，アンケート調査により，香川県におけるため池の現状・課題の認識の程度について把握した．この結果，認識の程度が低い事項，認識の低い属性等について明らかにした．今後は，ため池の現状・課題に関する情報発信のための戦略（情報発信の手段・媒体等）について検討する必要がある．

1)　角道弘文(1997)：溜池の歴史的認識の地域的意義とその活用, 農業土木学会誌, Vol.65, No.12, pp.312-313.

2)　中国四国農政局四国土地改良調査管理事務所ほか(2000)：平成 11 年度香川用水土器川沿岸地区調査, 農業用水等に関する地元意向調査－アンケート調査集計結果－, pp.7-24.